自衛隊の現場

あまり知られていないお仕事

航空自衛隊航空医学実験隊②

航空医学実験隊

今回は、前稿では紹介していなかった「操縦士の医学適性審査」および「航空環境における心理学／人間工学および医学調査研究」について紹介したいと思います。

基本的に健康な操縦士といえども、病気になったり、怪我をしたりします。医学適性審査とは、病気や怪我をした操縦士が、治療終了や病状回復後に、安全に操縦できるかどうかを審査することです。

「安全に操縦ができる」とは、急に操縦ができなくなるような状態（「機能喪失」といいます）があってはならないので、航空業務中、機能喪失を起こさない状態を指します。この判断には、最新の医学的知識を必要とするため、日々勉学に励んでいる、さまざまな専門科の医官によって審査検討が行われています。

また、使用する薬剤も日進月歩で進んでいるため、操縦士に適切に使用する薬剤の勉強も欠かせません。

「実験隊」と銘打っているように、航空医学実験隊（以下「医実隊」）は、研究機能も有しています。

研究内容は、航空安全に資する医学的調査研究であり、主として心理学／人間工学の研究を実施する部と、主として医学（薬学、生理学、生化学）の研究を実施する部があります。

心理学／人間工学の研究を実施する部の研究テーマの一つは、空間識失調による事故の防止です。

空間識失調とは、航空環境によって平衡感覚に異常を来すもので、最近の人的要因に起因する航空事故の最も多い原因とされています。この部門では、より効果的に空間識失調を防止するための各種研究を行っています。

医学の研究を実施する部の研究テーマの一つは、加速度誘発性意識喪失（G−LOC）による事故の防止です。

G−LOCとは、戦闘機が旋回する時に頭から足の方向に強い遠心力がかかることによって、脳の血液量が少なくなり、意識を喪失する現象です。

この部門では、加速度訓練を通じてG−LOCを起こさないためのトレーニング法、呼吸動作の教育・習得などを支援しています。

さらに、G−LOCの効果的な訓練法の研究に加え、G−LOCの検出法の研究も行っています。

また、低酸素状態から操縦士を守るための装具の研究やその他の研究も行っていますが、紙面の都合上、すべてを紹介できないことが残念です。

前稿で紹介したような訓練、医学適性審査、研究を通じて、医実隊は航空安全の実現に全力を投入しています。

もし、航空医学にご興味があれば、ぜひ見学やお問い合わせいただければと思います。

（航空医学実験隊
1等空佐　高田　邦夫）

遠心力発生装置

真駒内（北海道）

東千歳駐屯地創立記念行事総合予行を研修

研修を通じ、各職種をより深く理解

感動を記録に残す新隊員

まだまだ肌寒さを感じさせる札幌市・真駒内駐屯地に所在する第120教育大隊（大隊長・池田重雄2等陸佐）は5月24日、第7師団司令部および北部方面輸送隊の支援を受け「第7師団及び東千歳駐屯地創立記念行事総合予行」を研修しました。

本研修に参加した一般陸曹候補生（男性・女性）および自衛官候補生（女性）の約270人は、北部方面輸送隊の特大型トラックにより東千歳駐屯地に移動後、観閲式および訓練展示を特別席にて見学しました。

新隊員たちは、式典における一糸乱れぬ参列部隊の基本教練に感激し、その大切さを実感しました。

また、日本最大規模の観閲行進では大地を震わせて前進する戦車や装甲車をはじめ、大量の戦闘車両が一丸となり前進する様に感動。

訓練展示では、実践さながらに繰り広げる戦闘訓練を目の当たりにし、興奮を隠せない様子でした。

この研修を通じ、各職種をより深く理解するとともに、重戦力を装備する日本唯一の機甲師団を体感することができました。

新隊員教育は残すところ約1カ月となりましたが、大隊は引き続き、明るく元気な新隊員育成にまい進していきます。

弘前（青森県）

深浦町が実施する合同防災訓練に参加

訓練を通じて担当隊区との連携が深まる

炊き出し訓練をする隊員

第39普通科連隊第4中隊（中隊長・伊藤1等陸尉）は5月24日、担当隊区である深浦町が実施する合同防災訓練に参加しました。

深浦町は、41年前の日本海中部地震により甚大な被害がもたらされており、そのため毎年5月26日を「防災の日」と設定し訓練が行われています。

訓練は「日本海中部地震を超える、震度6強以上の地震が発生し、地震に伴う高さ10㍍の津波が到達」との想定で行われました。

第4中隊は深浦中学校で災害想定に合わせた災害対策本部での合同訓練、地元消防団との合同炊き出し訓練、防災学習会を行いました。

訓練を通じて災害発生時における担当隊区との連携が深まりました。

那覇（沖縄県）

国民保護担当者研修を実施

19市町村32人の自治体担当者が参加

装備品を見学する参加者

第15旅団（旅団長・上野和士陸将補）は5月31日、那覇駐屯地において沖縄県各市町村国民保護担当者研修を行いました。

この研修は沖縄県の各自治体国民保護担当者に対し、第15旅団の活動への理解を促進するとともに自治体との連携強化を図ることを目的に行われ、19市町村32人の自治体担当者が参加しました。

昨年4月に第15旅団に配置された国民保護専門官による概況説明の後、災害時に使用される装備品や空輸に関する航空機の展示・説明、隊員が炊事車で調理した食事の体験喫食が行われました。

参加者からは「自衛隊の活動および国民保護に対する理解が深まった」「国民保護関連だけでなく防災関連でも連携を希望したい」といった声が上がり、継続的な開催を要望する自治体も多く見られ、有意義な研修となりました。

姫路（兵庫県）

防護マスクの装脱面訓練とガス体験

あふれ出る涙や鼻水を必死にこらえながら

防護マスクを脱着

中部方面特科連隊姫路教育隊（連隊長・米村謙一1等陸佐）は5月17日、姫路駐屯地で実施中の自衛官候補生課程において防護マスクの装脱面訓練とガス体験を実施しました。

自衛官候補生たちは、防護マスクの構造機能や装脱面訓練を行った後、催涙ガスを充満させた天幕に入りました。

最初は防護マスクを装着していたため、催涙ガスによる影響を受けることはありませんでしたが、脱面すると、催涙ガスの効果を身をもって体験することとなりました。

その後、自衛官候補生たちはあふれ出る涙や鼻水を必死にこらえながら天幕を出て、催涙ガスを水で洗い流しました。

体験した自衛官候補生は、「防護マスクを装着していると何ともなかったのに、脱面すると顔中痛くなり、呼吸するのも困難でした」「防護マスクは常に身体から離しません」と話すなど、高い訓練効果を得ることができました。

信太山（大阪府）

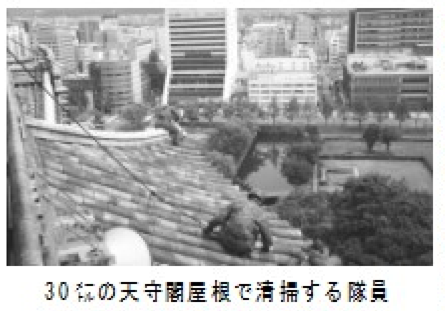
「和歌山城クリーン作戦」に参加

日頃の訓練で培った技術を遺憾なく発揮

第37普通科連隊（連隊長・三浦滋1等陸佐）は5月22日と23日の両日、和歌山市の主催する令和6年度「和歌山城クリーン作戦」に参加しました。

この事業は和歌山市が進める「水と緑と歴史のまち」づくりの一環として、1992年から毎年行われています。

連隊からは重迫撃砲中隊長（神谷敏好1等陸尉）以下約100人の隊員が参加したほか、和歌山地方協力本部、和歌山県隊友会、その他多数のボランティアの方が参加し、各団体の特性に応じて役割を分担しつつも、全参加者が一致団結して作業に当たりました。


30㍍の天守閣屋根で清掃する隊員

高さ約30㍍の天守閣屋根では、レンジャー隊員を中心に編成された部隊で万全な安全管理態勢の下、清掃を行い、鳥の糞や苔などをきれいに除去しました。

また、城内の石垣では、ロープなどの山岳機材を使用し、降下しながら石の隙間に生えた草木を刈り取るなど、日頃の訓練で培った技術を遺憾なく発揮して「和歌山城クリーン作戦」を遂行し、和歌山城の美観の維持に貢献しました。

隊員たちは、和歌山城を観光で訪れていた方々に暖かいご声援をいただき、士気高く活動を行いました。

仙台（宮城県）

緊急事態時の商品販売に係る支援協定を締結

運用を支える隊員の福利厚生施策を向上

「緊急事態時の商品販売に係る支援についての協定書」調印式
業務隊長（左）と防衛弘済会理事長

仙台駐屯地業務隊（隊長・畠山義仁1等陸佐）と一般財団法人防衛弘済会（田原義信理事長）は5月22日、緊急事態時の商品販売などに係る支援について協定を締結しました。

この協定は駐屯地に所在する厚生センターのコンビニエンスストア（ヤマザキデイリーストア）において、災害等緊急事態が発生した場合の商品販売に係る支援内容を明確にする目的で締結したものです。

緊急登庁支援施設（キッズルーム）で預かる子どもへの食料品や日用品などの優先販売の他、各地方から集まり活動する部隊・隊員のための営業時間の延長、それらに係る業務隊からの人的支援を定めています。

これにより、災害等緊急事態時の物資面の備えに対する態勢向上に寄与するものです。

調印式において、畠山業務隊長は「東北方面隊ビジョン2030を具現化し、事態対処能力の向上につながる重要な協定です」と述べ、防衛弘済会の支援に対して敬意を表しました。

また、防衛弘済会の田原理事長は「売店の商品販売態勢を強化し、災害派遣などで活躍する自衛隊の活動を支援していきたい」と述べました。

仙台駐屯地業務隊は、防衛弘済会とさらに連携を強化し、運用を支える隊員の福利厚生施策の向上に寄与していきます。

松本（長野県）

松本駐屯地創設74周年記念行事を挙行

晴天の下、県内外から約8900人が来場

巡閲する駐屯地司令

松本駐屯地（司令・秋山仲太郎1等陸佐）は4月20日、松本駐屯地創設74周年記念行事を挙行しました。

式典には、関昇一郎長野県知事代理、臥雲義尚松本市長、務台俊介衆議院議員を始め、多数の来賓を迎え盛大に開催されました。

当日は晴天に恵まれ、駐屯地には県内外から約8900人が来場。

秋山駐屯地司令は式辞において「松本駐屯地は、自衛隊の前身である警察予備隊の創設と同時、昭和25年に創設された最も歴史ある駐屯地の一つです。長きにわたり、長野県唯一の駐屯地として存在してこられたのも皆さま方のご支援およびご協力と、自衛隊に対するご理解があってのことです。改めて感謝するとともに、着任当初掲げた要望事項『松本市民・長野県民・日本国民の笑顔』を目標に掲げ、県内各自治体、関係機関の皆さまと密接に連携し、県民地域住民の皆さまから『笑顔』にあふれ愛される駐屯地を継承し、発展させていくことをお誓い申し上げます」と述べました。

観閲行進、第12音楽隊による音楽演奏、滝ケ原雲海太鼓、航空自衛隊入間修武太鼓、松本アルプス太鼓との合同太鼓演奏、模擬戦闘訓練展示が実施された他、信州大学吹奏楽団、松商学園バトントワリング部、松本チアチームラスターズなど、駐屯地全域で実施された各種イベントはどれも賑わいを見せました。

松本駐屯地は、これまで以上に国民の自衛隊に対する期待に応え、われわれに課せられた使命、責務を強く認識し、日々の訓練に励み、さらに地域に愛され、笑顔に溢れ、信頼される駐屯地を目指していきます。

南恵庭（北海道）

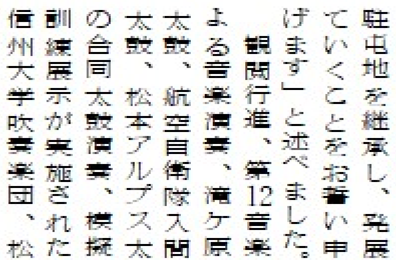
令和6年度自衛隊統合防災演習に参加

南恵庭駐屯地モニターの研修も実施

第3施設団（団長・鹿子島洋陸将補）は5月20日から24日までの間、令和6年度自衛隊統合防災演習（06JXR）に参加しました。

06JXRは日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震発生時の大規模地震の発災から一連の状況下における指揮幕僚活動の演練および計画検証による運用の実効性向上を図ることを目的としています。

この演習において団本部は、札幌駐屯地に方面施設調整所を開設し、団隷下部隊の運用および北方の4個師団・旅団に加え、増援の5個師団・旅団、第5施設団の施設力に係る調整・統制を焦点とした指揮幕僚活動を演練し、多くの教訓を得ました。


状況報告の様子

また、本演習間、南恵庭駐屯地モニターに対する総監部および道庁における活動状況や災害対処装備品研修を行いました。

参加者からは「日頃から本番さながらの訓練をしていることに驚き、有難く本当に感謝しています」との感想をいただき、自衛隊に対する理解と信頼を醸成し防衛基盤の育成に寄与しました。

百里（茨城県）

整補群ファミリー・デイを開催

開催目的を達成した実感に満足

航空自衛隊第7航空団（司令・松浦知寛空将補）整備補給群（以下「整補群」）は3月23日、整補群ファミリー・デイを開催しました。

整補群の隊員家族など（以下「招待者」）に対し、航空自衛隊の各種業務の見学および体験を通じ、整補群隊員の任務と業務に対する理解の促進を図るとともに、隊員募集広報に寄与するよう、整補群准曹士先任および各隊准曹士先任が計画立案しました。

上司の温かい賛同を得た上で、隊員は大切な休日を返上し、イベント開催を支援しました。

内容は、見学だけではなく、子供たちに喜んでもらえるような体験型イベントを考案し、F−2戦闘機（以下「F−2」）との綱引き、F−2を車両でけん引しての同乗体験およびF−2のコクピットからの離陸シーンをVRゴーグルで視聴しました。

牽引車に試乗する親子

整補群以外の部隊にもご協力していただき、隊員食堂での体験喫食や、大型破壊機救難消防車の放水見学および管制塔見学なども行いました。

終了後の招待者からのアンケート結果によりますと「隊員家族のためにファミリー・デイを開催していただき、ありがとうございます」「子供にとって、父親の職場を身近に感じられることができ、楽しいひと時を過ごすことができました」などの嬉しい言葉をたくさんいただくことができ、準備の苦労はあったものの、開催目的を達成した実感にとても満足しました。

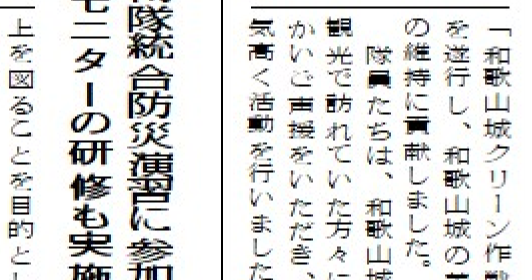
これからも、整補群は勇気を持って、団結し、前進して参りますので、よろしくお願いいたします。

船岡（宮城県）

UH−1Jの航空機体験搭乗

日頃の感謝と駐屯地に対する理解を深化

船岡駐屯地（司令・黒羽明陸将補）は5月18日、駐屯地モニター、令和6年度感謝状贈呈者、募集対象者、売店・喫食班で勤務する職員など28人に対し、陸自ヘリUH−1Jの航空機体験搭乗を実施しました。


毎年人気の体験搭乗

この行事は日頃の感謝を表し、駐屯地および部隊に対する理解を深めてもらうことを目的として毎年行われており、とても人気のある行事の一つです。

体験搭乗に先立ち、駐屯地および第2施設団の活動をまとめたVTRを放映し、駐屯地と部隊に対する理解を促進した後、ヘリに搭乗して、宮城県仙南地区を約15分間周遊しました。

五月晴れの中、上空からの木々の緑と空の青が美しいコントラストを描き、搭乗者を大いに魅了しました。

さらに、待機時間を活用し、広報館研修を実施して、駐屯地の沿革・歴史および自衛隊の活動についても理解を深めていただくことができました。

また、搭乗終了後には、鉄帽・防弾チョッキの体験試着などを行い、募集広報にも寄与することができました。

搭乗した方からは「自衛隊への関心が高まるきっかけとなった」「もっと乗っていたかった！」との声が寄せられました。今後もこの人気ある航空機体験搭乗を絶やすことなく、地域の皆さまとのつながる伝統行事として継続していきたいと思います。

岩見沢（北海道）

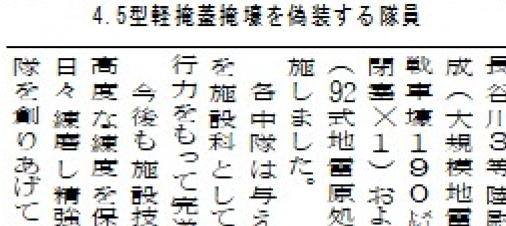
施設中隊の訓練検閲を実施

日々練磨し精強な施設科中隊を目指す

第12施設群（群長・山下拓路1等陸佐）は、年5月20日から24日の間「第398施設中隊（中隊長・神谷1等陸尉）および第399施設中隊（中隊長・松村1等陸尉）訓練検閲」を実施しました。

訓練検閲開始に当たり統裁官（群長）は「任務の完遂」「安全管理の徹底」の2点を要望しました。

各中隊の任務は「全般支援任務を付与された施設中隊の行動」であり、当初20日から22日の朝までは、岩見沢駐屯地および孫別演習場で「重要防護施設の防護」の任務にあたり、施設への出入者等や車両の点検を自衛隊の権限や武器使用規範に基づいた行動で確実に対応しました。


4.5型軽掩蓋掩壕を偽装する隊員

22日の朝から各中隊は北大演に移動して、偽集結地へ進入して車両や指揮所等のデコイを構築し、じ後、中隊本部を主体に別の地域に夜間移動し集結地を占領しました。

第398施設中隊の小隊（小隊長・高木3等陸尉、安井陸曹長）は各種陣地（4・5型近SAM用軽掩蓋掩壕（えんがいえんごう）×1、2・5型指揮所用簡易掩蓋×1、近SAM用露天掩体×3、人員用退避壕×2）を構築しました。

第399施設中隊の小隊（小隊長・西海2等陸尉、長谷川3等陸尉）は障害構成（大規模地雷原×2、対戦車壕190㍍×1、道路閉塞×1）および障害処理（92式地雷原処理車）を実施しました。

各中隊は与えられた任務を施設科としての執念と実行力をもって完遂しました。

今後も施設技術の向上と高度な練度を保持するべく日々練磨し精強な施設科中隊を創りあげていきます。

漢字あそび　第20回

問題・読めるかな？

初級

知らないとちょっと恥ずかしい

- 思惑：狙いを秘めた思い。「思惑どおり」
- 迂遠：回りくどい

中級

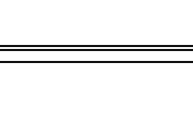
意外とやっかい

- 氷雨：冷たい雨
- 批准：条約を承認すること

上級

自慢できるかな？

- 閂：門戸を閉め切るための横木、四文字



（解答は、7面に）

（出題・解答・LUCKY）

※数字：頭の体操はお休みします。